

# 地域の中の文化財を護り、伝えていく

## —昭和女子大学で学んだことを生かして—

館 まりこ

海老名市教育委員会

生活機構研究科修士課程の発足20周年記念、誠におめでとうございます。

現在、海老名市教育委員会文化財課に所属し、文化財保護に関わる仕事に携わっています。海老名市は神奈川県中央に位置し、歴史と自然に恵まれた地域で、多くの文化財が存在しています。文化財や歴史は過去のものと思われがちですが、いずれも現在を生きており、それを護り、伝えていく仕事は、現在・過去・未来を繋げる大切な役割を担っていると日々感じています。

学生時代は考古学を専攻し、日本文化史学科（現歴史文化学科）を卒業した後、大学院修士課程へ進学、平成14年3月に修了、昭和で計6年間を過ごしました。多くの先生方から学び、先輩・友人たちと過ごした学生時代の経験は、現在の仕事に直接生きており、財産となっています。特に先生方との結びつきの深さは他大学以上と卒業してから実感しています。また、大学時代に一緒に学んだ仲間が同じ職種で頑張っている姿、現在は違った職種の友人が勉強を続けている姿は自分の励みとなっています。

大学院へ進学した理由は、学部時代に学んだことをさらに専門的に研究したいと考えたからです。また身近にいらした先輩が院に進学し、活躍している姿を見ていたこともひとつのきっかけとなっています。大学では現場（本物）に触れる機会にも多く恵まれました。学部4年生の時に神奈川県大井町にある中屋敷遺跡の発掘調査が開始され、大学院時代、そしてこれまで関わることができたこと。目で見、足で歩き、手で触れてと五感を大切にした教えは、現在、講座や展示を開催する機会、地元で聞き取り調査をする機会等に繋がっています。

就職先として地方公務員を選んだのは、地域の中の文化財に関わる仕事がしたいと考えたからです。文化財と一言で述べても、建造物・工芸品・古文書等の有形文化財、演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財、衣食住・信仰等の民俗文化財、埋蔵文化財、動植物の天然記念物、文化的な景観と非常に広いものです。そして、そこには必ずつくり出した人、使う人、護る人、伝承する人といったように「人」が存在しています。実際、地域の中には多くの文化財が存在し、多くの人が関わっています。文化財を通して、その地域の魅力

を語る事ができたらと願っています。

仕事を始めて実感することは、文化財の範囲が非常に広いこと。担当の職員も多くないことから、専門でない分野も大学時代の記憶の引き出しを引っ張り出して格闘しています。大学院では、専門性を高めると同時に広い視野を持つことの重要性、わからないものにぶつかった際の調べ方を身に付けることができました。

最後に最近のことをひとつ。小学生を対象にした縄文土器づくりといった講座も開催しています。講師を大学時代の恩師にお願いしたところ快く引き受けてくださり、非常に密度の高い講座となりました。参加した子どもたちが本物の土器に触れて何かを感じ取っている姿、観察力の鋭さに非常に感動しました。

これから地域の文化財を護り伝えていくためには、こうした子どもたちなど地域の人々の力が重要です。まずは文化財をよく知ってもらい、大切にしたいという心を持つ人を一人でも多く増やしていければと願っています。私も大学院で学んだ経験を生かし、飛躍できるよう日々努力していきたいと思えます。

(2001年度生活文化研究専攻修士課程修了)

